

明治二年

(二月)

正月元日 晴。

御式も御めて度済せられ候。

*御めて度(御目出度)

(二月) 二日

此日も御式御めて度済せられ候。

*御めて度(御目出度)

(二月) 三日

此日より二条え帰り候。御客のこしらへいたし候。一宿。

*こしらへ(拵へ)

(二月) 四日

昼後より父さま賀の祝にて客招いたし、宮原先生、豹さま、吉田さま、式部女、卜部、増田将監、浅井修理。此時、沢主水守様、近藤さま、馬六鬪にて御出也。暫して帰られ候。酒宴大はつみ、三更ニ皆々帰られ候。父さま、千世滝さま、私、きく女、兵部子と取持いたし候。

*沢主水守(沢主水正) *大はつみ(大弾み)

(二月) 五日

昼下り刻、寺町革堂前にて横井平四郎首取られ候。奇也。私、八ツ時後、沢さまえ御礼ニ上り、暫して日暮ニ帰殿いたし候。此日より御所九門嚴重ニ相成候。

(二月) 六日

(コノ日、記事ナシ)

(二月) 七日

石山様え御礼ニ上り候。夫ヨリ伏田え寄、一宿。

(二月) 八日

岡崎御坊より招かれ候て、秀嶺、おつたさま、おあささま同道にて行。三曲大はつみにて、

夜三更ニ伏田迄帰り、此夜、大雪ニて月清光也。此夜も一宿。
*大はつみ(大弾み)

(二月) 九日
昼後より帰殿いたし候。

(二月) 十日
(コノ日、記事ナシ)

(二月) 十一日
(コノ日、記事ナシ)

(二月) 十二日
(コノ日、記事ナシ)

(二月十三日) 二月三十日、日記ナシ)

(三月)

(三月一日) 三日、日記ナシ)

三月四日

不言菴家かた付、大かた御殿え道具相はこひ、いろ／＼せたい道具一通り残し置候て、山下左内え不言菴相借候わけハ、前年寺田善治郎一件ニ付、大坂代官御手代ニテ相頼候次第有之、夫故無拠不言菴相借候。

*はこひ(運び) *せたい(世帯) *借(貸) *借(貸)

(三月五日) 十日、日記ナシ)

三月十一日

此日、母さま、鶴女連て北野天満宮え参られ候て、夕方七ツ時帰殿致され候。母さま、昨冬より腹痛追々全快ニて、始て北野え参詣致され、夫より又々ふら／＼とあしく、(三月十二日、日記ナシ。三月十三日へ続く)

(三月) 十三日

大坂寺田里江様之間兄さま、子供連て参殿致され、暫して帰られ候。母さま御病氣、村松

慶庵に相見てもらい候処、死病五月中頃迄と申され、夫より前日母さまも此度は死病故、其つもり可致様仰せられ、誠に御きの毒さまと云へし。涙をこほしまいらせ候て、夫より追々重く相成、御殿にて養生致され候へとも、何やら不都合にて、東洞院え帰り度仰せられ、山下左内俄に相断、早々転宅してもらい候て、(三月十四日)四月五日、日記ナシ。四月六日(へ続ク)

*御き(御気)

四月六日(七月廿四日マデ一項目ノ記述)

夜、不言菴え御帰りニ相成、ひとく相悦れ、夫ゆへ庭の花なぞ見に参られ、少々ツ、歩行も致され、大みによく候て、悦く居り候処、やはり又々少々ツ、あしき方ニ向ひ、船引相願候処東下致、留主中にて、舟引の頼いし西田と申人来、診察いたし候へとも、病人の氣に入不申、又相断、其内十日斗いたし候へは、船引帰京いたし、夫より日々参りいろく倍道子と相談して、服薬致され候へとも、何分よりはひとく候て、療治六ツケ敷候へとも、大みに心配致され候て、腹満も日々に少々ツ、相引、両湯とも沢山通し、大みによく候へとも、もはや少しも歩行出来不申様子相成、おまるにて最初は両湯とも取候へとも、日々におまるにも乗候事出来かたく相成、むつきにてとり候様ニ相成、私ハそは不離かい抱いたし、千世滝さま日々御殿より通ハれ、日々方々より見舞の絶間なく、病人も大みにく相悦、**睨通し**にて居られ候。

抱(介抱)

四月廿日

りき女来候。夫より相抱候。

(四月)廿一日

長野叔母さま上られ候て、五月十二日ニ出立致され候。其後、天下茶屋叔父伯母病氣見舞に登られ候て、両三日居られ候て、帰坂致され候。廿五日也。

(五月)廿八日

天下茶屋よし女死去致され候。

此月七日

朝、病人よほとよろしく、大みに悦居られ候へとも、八ツ時頃より少々あしく、段々と変来り、皆々呼に遣し、家内親子兄弟不残打寄、みなく暇乞して、称名声と共に往生致され、実にく**結講**ニは候へとも、残り多く涙落如雨。此時、雨如車軸、此時暮六ツ後也。夜通し致し、

*此月(六月) *結講(結構)

翌(六月)八日

密葬いたし候。則七条也。先するく葬式も相済、

翌(六月)九日

灰葬に参り、御骨持帰り、**トウ骨**は即成寺えかり納いたし、日々即成寺え参詣いたし候。

中陰七七日も相勤候。

*トウ骨（頭骨） *かり納（仮納）

六月廿日

祖母妙祐さま三十三回相勤、泉徳寺主寺役僧、即成寺も参り、先々相宮候。月忌、親子不残大谷え参詣して御骨相納候。

*主寺（住持）

七月廿四日

五十日も相勤候。月忌済て、典膳、民部、御殿え出勤いたし候。私事、廿四日法事済て始而忌明而参殿いたし候。

（七月廿五日〜二十九日、日記ナシ）

（八月）

八月朔日 晴。

昼前より参殿いたし候。此日、町内より宗旨人別寺請差出し候様申来候。越後智順寺参殿いたし候。明日帰国ニ付、暇乞に参り候。私、九条殿え参り、暫御咄しにて帰殿、八ツ時より沢さまえ御礼ニ上り候。暫して石山殿え上り、夕景、伏田え行、一宿。此夜、出火。大宮、蛸薬師。此日、父さま延生日にて、二条不言にて祝致され候て、一宿。りき女御殿にて相泊り候。

*智順寺（皆順寺） *延生日（誕生日）

（八月） 二日 雨。

朝、御坊延賞台にて昼迄遊ぶ。此日、土山娘御殿え御目見にて、八ツ時頃より雨中、私、おつたさま、さき女連て参殿いたし候て、御目見も相済、早々帰られ候。七ツ時、私、不言菴え帰り候。夜三更迄詩作。

（八月） 三日 晴、七ツ時、雨。

朝、四季花卉額面認、屏風落歡スル。四ツ時下り、宮原先生、高橋泰一郎来。父様、朝ヨリ来られ候。昼時、兩人帰られ候。父さま、昼後、帰られ候。此日ヨリりき女御殿え御手伝に上ヶ候。夜三更迄読書。

*落歡（落款）

（八月） 四日

八ツ時より参殿いたし、殿様、よし姫さま御稽古上ル。此日、伏田より文、親類書参り、

持参致し候。夜一宿。父さま、不言菴え行れ候。

(八月) 五日

朝より両面打敷認ル。夜、竹の、鶴尾、泊りに来られ候。

(八月) 六日

朝より半切山水認ル。昼後早々、御殿より呼に來、参殿いたし候。此日、泉徳寺退夜参りいたし候。夜、御殿二而一宿。

(八月) 七日

朝、帰り候。八ツ時より九条さまえ参殿、稽古致し、姉御殿え上り、早々りき連て帰り候。

(八月) 八日

朝、父さま御出、下男[□]之助來。暫時咄して帰られ候。昼後より馬にて方々行れ候。私、終日画、法帖認ル。

(八月) 九日

丁内判取にて年寄え行、印形いたし候。昼後より姉御殿え上り候。此日、横山しけや出勤致され候。伏田あさ女も上られ候。御書上ル。日暮て帰り候。典膳、兵部子送りくれられ候。早々帰られ候。夜、法帖認ル。読書。臥、三更ヨリ起て、又法帖認ル。夜明ル。

(八月) 十日

此日も丁内判取也。短冊十枚認ル。夜、読書。

(八月) 十一日

宮原紹介画帖二枚認ル。此日、若州公用方福岡小源太來られ候。

(八月) 十二日

昼飯早々、姉御殿え上り、八ツ時ヨリ九条殿え上り、稽古して、夕方姉御殿え帰殿いたし一宿。

(八月) 十三日

石田源兵衛來。此時、大雨大雷三ヶ所雷落る。石田昼飯食て、暫して姉御殿え上り候。小襖二組認ル。

(八月) 十四日

昼飯早々、姉御殿御稽古上に参り、日暮、父様と同道にて帰宅。

(八月) 十五日 月朧

四ツ時より父様と同道にて片山能見二行。松屋太右衛門、光女も一所二行候也。田村、景清、羽衣、道成寺、四番見て日暮ニ相成、今一番舟弁慶不見と相帰り、早々御殿え上り、一宿。此夜、大風。

(八月) 十六日

朝明六ツ時、御出門にて嵯峨え成らせられ候。よし姫様、御供^園様、山本、吉井、私、きく、ひて、しげや、やつこ也。朝五ツ時、嵯峨え成らせられて、四ツ時下り、阿弥陀寺え成らせられ候て、御弁当ひらく。八ツ時迄遊ぶ。七ツ時前、還御也。私一宿。

(八月) 十七日

朝、帰宅。屏風下^{こしらへ}いたし候。

*こしらへ(拵へ)

(八月) 十八日

屏風認にかゝる。

(八月) 十九日

昼後早々、姉御殿え上り御稽古いたし、夜、十八史略輪講有。夜一宿。

(八月) 廿日

朝、帰宅。昼後より寺町辺え調物二行、七ツ時、帰宅。

(八月) 廿一日

朝、屏風認ル。昼後より片山能え行。父さまト同道也。七ツ時、帰宅。

(八月) 廿二日

屏風認上ル。

(八月) 廿三日

八ツ時より九条殿え上り、御稽古いたし候。七ツ時後帰宅、早々姉御殿え上り一宿。

(八月) 廿四日

朝、帰宅。四ツ時、父さまト同道にて園山惣兵へ方え行、惣兵衛の極彩色金子屏風、西山

名所、東山名所、人物四百余り也。人物尺一寸より三部迄之内、人物尽、夫々の意を得て其赴入精神、実古今無双の名人也。昼時、帰り懸、前田方え寄、暫シテ帰宅、早々姉小路様え参殿、則、御稽古上て、夜、十八史略輪講、一宿。

*其赴入(其趣入)

(八月) 廿五日

朝、帰宅。扇面五本画。夫ヨリ終日針線事スル。夜三更ニ臥。

*〔針線(ママ)〕事

(八月) 廿六日 晴。

終日法帖、画。夜四更後迄読書。

(八月) 廿七日

朝、帯下絵。昼後より九条殿え上り御稽古。七ツ時済、姉御殿え帰り一宿。

(八月) 廿八日 雨。

朝、帰宅。昼飯して、姉御殿え上り、御稽古。夜、輪講一宿。

(八月) 廿九日 雨。

朝、帰宅。夜、宮原ニテ文章軌範講訳聞、夜三更迄読書。此日、青木雅信来られ候。

*講訳(講釈)

(九月)

九月朔(日)

扇子認ル。谷の妻君赫女連て来られ候。暫時して帰られ候。青木雅信、帰坂のいと間乞に来られ候。夜、書見、四更後ニ到る。

*いと間(暇)

(九月) 二日

昼飯早々、姉御殿え上り候て、八ツ時より九条殿え行、稽古して、夕方、帰殿。夜、一宿。

(九月) 三日

昼飯早々、姉御殿え上り、御稽古上ケ候て、夜、輪講、一宿。

(九月) 四日

扇子認ル。小屏風秋冬の花鳥認ル。

(九月) 五日

此日も屏風認ル。落製ニ至ル。

(九月) 六日

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 七日

此日、九条殿稽古日、不参。

(九月) 八日

此日、姉御殿え上り、早々帰宅。夜、泉徳寺永高来られ候。

(九月) 九日

昼後より谷氏え行、終日遊ぶ。夕方、姉御殿え行、一宿。

(九月) 十日

朝、帰宅。早々泉徳寺え行、暫して帰り、昼後より谷氏と約束して東山辺え行候はつの処、雨天にて止。此時、永楽屋お駒子、井上照女来、暫して帰られ候。八ツ時下りより姉御殿え上り、一宿。

*はつ(筈)

(九月) 十一日

姉御殿にて、又一宿。

(九月) 十二日

朝、帰宅。昼後より九条殿え上り、稽古上て、七ツ時下り帰宅。

(九月) 十三日

昼時、姉御殿より呼に來候て、早速参殿。明日より播枝田通寺え成らせられ候御こしらへ也。夜、十八史略輪講。夜、一宿。

*播枝(幡枝) *こしらへ(拵へ)

(九月) 十四日

朝五ツ時、御出門。蓮さま、殿様、よし姫さま、女中不残、私も御供いたし候。表一統、寿さま、千世滝さま、御留主番也。播枝円通寺にて栗ひらい。昼飯被遊候て、八ツ半時より岩倉え成らせられ候。殿様、俄に御還り也。外様は皆々岩倉にて御泊り也。夜、月清光、妙也。

*播枝(幡枝) *栗ひらい(栗拾い)

(九月) 十五日 晴。

朝、神事拝見ニ参り候。殿様、四ツ時成らせられ候。八ツ時ヨリ石山様ニて競馬見物して、七ツ時前ニ御別荘え御帰りニ相成。蓮さま、御帰殿あらせられ候。殿様、よし姫さま、今御一宿也。此夜も月清光也。

(九月) 十六日 晴。

朝ヨリ松茸狩也。茸も殊の外沢山ニて真におもしろき事也。殿様、八ツ時下り御帰り也。よし姫さま、七ツ時前に御帰り也。私、姉御殿ニて一宿。

(九月) 十七日 雨。

朝、帰宅。夫ヨリこしらへいたし、先妣百ヶ日相つとめ候。表一統、堺屋相呼候也。

*こしらへ(拵へ)

(九月) 十八日 晴。

殿様、寿さま、よし姫さま、奥一統、下部一統、宮原、竹の、六之助御客也。七ツ時下り、御帰殿也。

(九月) 十九日 晴。

朝ヨリ法帖二冊認、画半切二枚認。夜、宮原ニて孟子講訳聞。

*講訳(講釈)

(九月) 廿日

蓮さまよりのはしさしの上絵認ル。姉御殿え上り御稽古いたし、夜、一宿。

*はしさし(箸差)

(九月) 廿一日

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 廿二日

朝、帰宅。短冊十枚認ル。昼後より九条殿え御稽古ニ上り、七ツ時、帰宅。此時、姉御殿

より呼に來。夕方ヨリ、りき連て上り、長生節御祝にて、夜、大賑々しく候。私一宿。

(九月) 廿三日

朝、帰宅。赫の子認物済し候て、はしさし認ル。

*はしさし(箸差)

(九月) 廿四日

はしさし認ル。夜、宮原にて孟子講訳聞。此夜、西陣十八町一番組より五番組迄、御所外グルワ御千度いたし候。中后様、東京(え)成らせられ候二付、町人共、御東后止ルニ付祈候也。

*はしさし(箸差) *講訳(講釈) *グルワ(曲輪) *御東后(御東行)

(九月) 廿五日

此朝より父さま大坂へ行候。★(馬十乗)馬也。寅吉別当いたし候。

*★(馬十乗)馬(騎馬)

(九月) 廿六日

此朝、民部、大坂へ行候。私、四条寺町辺え買物二行候。昼時、帰宅スル。夫ヨリ御さいく物認ル。

*さいく物(細工物)

(九月) 廿七日

九条殿扇子二本認ル。昼飯して姉御殿え上り、八ツ時より九条殿え上り、夕方、姉御殿迄帰、一宿。

(九月) 廿八日

八ツ時、帰宅。認物、さいく物上絵。

*さいく物(細工物)

(九月) 廿九日

終日、御細工物上絵認ル。夜、宮原にて講訳聞、帰り、読書、三更迄。此日、民部、大坂より帰り候。

*講訳(講釈)

(九月) 三十日

昼時迄認物。夫ヨリ姉御殿え上り、七ツ時、帰宅。

(十月)

十月朔日 晴。

昼後より四条寺町辺え遊行。七ツ時、帰宅。

(十月) 二日

終日、おさいく物上絵スル。此日、丁内講初会にて、久阿弥にて催候。りき女遣し候。夕暮後、帰宅。

*さいく物(細工物) *丁内(町内)

(十月) 三日

昼時より姉御殿え上り、御稽古上ル。夜一宿。

(十月) 四日

朝、帰宅。此日より、きぬ女来候。父さま、此夕、浪花ヨリ帰られ候。七ツ時より、私、姉御殿え上り候。明日、中后様御東行ニテ、拝見のつもりにて一宿いたし候。此夜半頃、大仏辺出火にて、夫ニ付、騒動様／＼ひら戸ヨリ申来、大さわき也。徹夜いたし候。先々何事もなき様子にて、うれしく候。

*大さわき(大騒ぎ)

(十月) 五日 雨。

朝、中宮様御出輦あらせられ候。私、拝見ニ参り候。町人、下々の者、皆々残り多／＼かり候。前々より日々の天神さまえいのり止候事也。昼前、帰宅。

*いのり(祈り)

(十月) 六日

放業、夜二更迄読書。

(十月) 七日

朝、姉御殿え上り候。此日、母さま石碑常賢院にて立ル。よし姫様御参詣遊し、私も参詣いたし候。昼時より父さま、千世滝さま、私、民部、きく、清吉と也。七ツ時、二条迄帰り、暫して皆々帰殿致され候。夜、読書。

(十月) 八日 晴。

朝ヨリ画、法帖認ル。昼時、細辻え稽古に行、帰り、九条殿え御稽古に上り、七ツ時帰ル。夜、読書、三更迄。

(十月) 九日 晴。

昼時より姉小路様え上り、御稽古いたし、七ツ時帰宅。夜、宮原え文章**範軌**の**講訳**聞に行、一更二帰ル。

*範軌(軌範) *講訳(講釈)

(十月) 十日

朝ヨリは**こ**お細工物上絵認ル。夫ヨリ小襖二枚認ル。夜三更迄読書、法帖認ル。

*はこ(箱)

(十月) 十一日

半切二枚、横物一枚認ル。

(十月) 十二日

朝、半切一枚認ル。昼後、姉御殿え上り、夫ヨリ九条殿え上り御稽古上て、七ツ後より帰宅。

(十月) 十三日

朝ヨリ半切三枚、短冊二枚認ル。

(十月) 十四日

朝、短冊四枚認、皆々**落款**いたし、昼後より姉御殿え上り御稽古上ル。九条殿頼まれ物差出し候。七ツ時、帰宅。

*落款(落款)

(十月) 十五日

昼後より岡崎え行かけ、沢さまえ行、画の認物二付御相談申候也。八ツ時、**真女堂**え参り、夫ヨリ伏田え行。むね岡家内居られ、ひとく留られ、りき女帰し、私一宿する。

*真女堂(真如堂)

(十月) 十六日

朝、帰宅のは**つ**、壬生松本氏来られ候て、いろく珍談。七ツ時前、帰宅。千世瀧さま、民部来て居られ候。夕暮、帰殿也。

*はつ(筈)

(十月) 十七日

昼時、姉御殿え上り、八ツ時、九条殿え上、稽古。七ツ時済、復姉御殿え上り、夜、御稽古。一宿。

(十月) 十八日

昼時、沢殿え上り、襖四枚若松画。一宿。

(十月) 十九日

襖四枚若松、襖四枚竹画。夕暮、帰宅。夜、宮原講訳聞。

*講訳(講釈)

(十月) 廿日

姉御殿え上り候。此夜、一宿。

(十月) 廿一日

朝六ツ時ヨリ御出門ニテ、蓮様、高尾え成らせられ候。私、御供いたし候。信猷院さま、御寺御所女臈さまも成らせられ候。梅の尾方丈ニテ御昼、八ツ時迄御遊ひ遊し候。紅葉少々おくれ候へとも、真二艷景也。椿寺ニテ日暮也。御帰り五ツ時前也。亦此夜も一宿。
*女臈さま(上臈さま)

(十月) 廿二日

朝、帰宅。九条殿稽古断候。良姫様召物下絵する。夜五更迄、下絵いたし候。

(十月) 廿三日

昼時迄下絵認ル。昼時より姉御殿え上り候。御稽古上ル。夜一宿。此夜、おもひ立遊し候て、三井寺行の御こしらへ也。

*おもひ(思ひ) *こしらへ(拵へ)

(十月) 廿四日

朝七ツ時、御出門ニテ、殿様成らせられ候。私も御供いたし候。表一統御供也。滝上ニテ夜明ル。三井寺ニテ五ツ半時也。尾花川ニテ御船ニ召れ、唐崎え成らせられ候。御昼也。松大見事ニテ、真二咄しよりも勝り候也。八ツ時ヨリ白川越ニテ、実にく白川の処々の流レ面白き事也。日暮後、御帰殿也。私、此夜も一宿。

(十月) 廿五日

朝、帰宅。

(十月) 廿六日

昼時より沢様へ行、忠姫さま、清水え成らせられ候御供いたし候。五ツ時前、御帰り也。夜一宿。

(十月) 廿七日

二間四枚襖墨竹認ル。又二間四枚水墨梅認ル。七ツ時、帰宅。

(十月) 廿八日

昼時、宮原弥さま三回忌にて参る。八ツ時より姉御殿え上り御稽古して、夜、一宿。四更迄読書。

(十月) 廿九日

朝、帰宅。書画帖認ル。

(十一月)

十一月朔日

終日法帖認ル。

(十一月) 二日

昼後より姉御殿(え)上り、九条殿え上り、御稽古して、七ツ時ニ帰宅。夜三更迄読書。

(十一月) 三日

朝、法帖認ル。昼時、姉御殿え上り、御稽古上ル。夜一宿。

(十一月) 四日

朝、帰宅。昼時より沢殿へ行、襖二組認ル。七ツ時、帰宅。

(十一月) 五日

朝ヨリ沢殿へ行、襖認ル。七ツ時後に帰宅。夜、詩作。

(十一月) 六日

終日、報恩講こしらへいたし候。朝、書画帖認、姉御殿え上り、額面二枚認ル。帰宅。父

さま、夜一宿致され候。

*こしらへ(拵へ)

(十一月) 七日

八ツ時、殿様、よし姫様成らせられ候。此時、泉徳寺参詣いたされ候。御家来一統参詣致され候。夕方、御帰殿也。

(十一月) 八日

父様、千世滝さま、私、民部、大谷え参詣いたし候。七ツ時、帰宅。千世滝さま、夜一宿。父さま、民部、帰殿。

(十一月) 九日

朝より右四人連にて知恩院迄行、昼下り帰宅。千世滝さま、私、民部、同道参殿候。父さま、近万え行れ候。

(十一月) 十日

沢殿ニ認物ニ行、一宿。此夜、江州主水、奥田、勘五郎、富、四人連にて来宿。

(十一月) 十一日

此日も襖認ル。夕方、沢殿より帰宅。右四人居られ候。

(十一月) 十二日

九条殿休候て、姉御殿え上り候。夜一宿。御稽古上ル。

(十一月) 十三日

(コノ日、記事ナシ)

(十一月) 十四日

(コノ日、記事ナシ)

(十一月) 十五日

(コノ日、記事ナシ)

(十一月) 十六日

此日、沢殿より芝居行誘れ候て、七ツ時より行。四ツ半時より皆々北の芝居え行。

(十一月) 十七日
七ツ時、果ル。夫ヨリ帰宅。

(十一月) 十八日
(コノ日、記事ナシ)

(十一月) 十九日
此夜四ツ時より南の芝居へ行。

(十一月) 廿日
七ツ時、果ル。姉御殿迄帰り一宿。

(十一月) 廿一日
朝、帰宅。昼時より野村能二行。一更二済。沢さまより誘れ候也。夫ヨリ秋田屋敷へ行。
妓婦大せい来、大さわき也。三更ニ帰宅。

*大さわき(大騒ぎ)

(十一月) 廿二日
昼後、姉御殿え上り、夫ヨリ九条殿え上り御稽古上て、七ツ時、姉御殿迄帰り、夜四ツ半時より北の芝居へ行。

(十一月) 廿三日
七ツ時、果ル。姉御殿迄帰り一宿。

(十一月) 廿四日
朝、帰宅。

(十一月) 廿五日
昼後、沢殿へ行。七ツ時前、姉御殿え上り、早々引返し帰宅。父さま、風邪ニテ帰られ候。

(十一月) 廿六日
此日も父さま滞留。私、朝、扇子一本認ル。昼時、木津太兵衛、今宮和三郎連て来。七ツ時、尾上長兵衛、辰巳佐太郎、辰巳万蔵、登、一宿。此朝より、りき女他行、夜不帰。此日、岡小十郎、濃州川島衛司来。

(十一月) 廿七日

明六ツ時より木津の連中、御朝時参りいたし候。昼時より、私、姉御殿え上り、八ツ時より九条殿え上り、御稽古上て、夕方帰宅。此日朝ヨリ大雪、不積。八ツ時、木津連皆々帰り一宿。

(十一月) 廿八日

四ツ時より木津連皆々帰坂いたし候。父さまも帰殿致され候。此夜、りき女他え出候也。

(十一月) 廿九日

(コノ日、記事ナシ)

(十一月) 三十日

朝ヨリ沢殿え行、秋の襖認上ル。一宿。此日七ツ時より大坂横の人来、一宿。

(十二月)

十二月朔日

春の襖ニかゝる。此日昼後、姉殿様成らせられ候。夕方前ニ御帰殿あらせられ候。此夜、石山若殿様御泊りにて大さわき也。此夜も横間一宿。

*大さわき(大騒ぎ)

(十二月) 二日

終日、襖認ル。

(十二月) 三日

七ツ時前ニ春の分襖六枚落製ニて、姉御殿え向て帰る。夕方より帰宅。父さま、北村子居られ候。一更ニ帰殿致され候。

(十二月) 四日

七ツ時前より姉御殿え上り一宿。夜、雪。此夜、留主中、江州富来、一宿。

(十二月) 五日

朝、帰宅。

(十二月) 六日

(コノ日、記事ナシ)

(十二月) 七日

此日より沢殿え行、認物、壺間二枚襖。一宿。

(十二月) 八日

壺間半四枚襖夏山水認ル。一宿。

(十二月) 九日

夏山水認ル。昼時より砂子にかゝる。一宿。

(十二月) 十日

終日砂子ふる。一宿。

(十二月) 十一日

朝、画落歛して帰宅。法帖認ル。

*落歛(落款)

(十二月) 十二日

昼時、姉御殿え上り、夫より九条殿え上り御稽古上ル。七ツ時下り、姉御殿え帰り、一宿。

(十二月) 十三日

屏風四季花卉にかゝる。

(十二月) 十四日

此日も屏風にかゝる。此日、宮原え講訳聞ニ行。此夜咄しに、堺町御門え張紙いたし候かし

かし屋札

かり主 五大州

長州、薩州 引請人

*講訳(講釈)

(十二月) 十五日

此日、屏風落製。夜、四条え買物ニ行。

(十二月) 十六日

昼時より姉御殿え上り、御稽古いたし候。夜一宿。

(十二月) 十七日

朝、帰宅。八ツ時より九条殿え御稽古に上り候。七ツ時、帰宅。父さま居られ候て、夜、四条え買物ニ行候。父さま御一宿。

(十二月) 十八日

片一方の屏風にかゝる。

(十二月) 十九日

此日も屏風認ル。水島みつ来られ候。

(十二月) 廿日

屏風認上ル。殿様成らせられ候。暫して御帰殿也。夜、扇子五本、小切唐紙四枚認ル。

(十二月) 廿一日

朝、谷氏え行。□卿東京え下らせられ候ニ付、暇乞ニ行。暫して帰り、昼時より仏参いたし候。姉御殿え上り、七ツ時、帰宅。

(十二月) 廿二日 雪。

昼後、岡小十郎来候。八ツ時ヨリ姉御殿え上り、夫より九条殿え御稽古ニ上り、夜一更ニ帰り候。姉御殿ニテ一宿。

(十二月) 廿三日

昼時より沢殿え行、暫して帰殿。御稽古上ル。七ツ時、帰宅。夜、宮原ニテ講訳聞、一更ニ帰る。

*講訳(講釈)

(十二月) 廿四日

掃事也。

*掃事(掃除)

(十二月) 廿五日

朝、姉御殿え上り、夫ヨリ岡崎ふし田え行、昼後、帰宅。合作物認、ぬめの花籠にかゝる。
*ふし田(伏田) *ぬめ(統)

(十二月) 廿六日

朝、御殿え上り、御かちんつきにて、終日御手つたい致し候。四ツ時、相濟候。一宿。

(十二月) 廿七日

朝、帰宅。ぬめの花籠認上、壁羽二重鏡懸、若菜籠認ル。此日、岡小十郎来候。
*ぬめ(統)

(十二月) 廿八日

紫縮緬鏡懸、玉堂富貴認。半切梅林山水、春江泛舟詩半切認。

(十二月) 廿九日

扇子九本認ル。

(十二月三十日、日記ナシ)